

平成 21 年度 医学共通講義Ⅲ
機能生物学入門
新基盤生命学講義 (GCOE「統合生命学」)



演題: 精神機能理解に向けた分子戦略—気持ちは態度に表れるか?

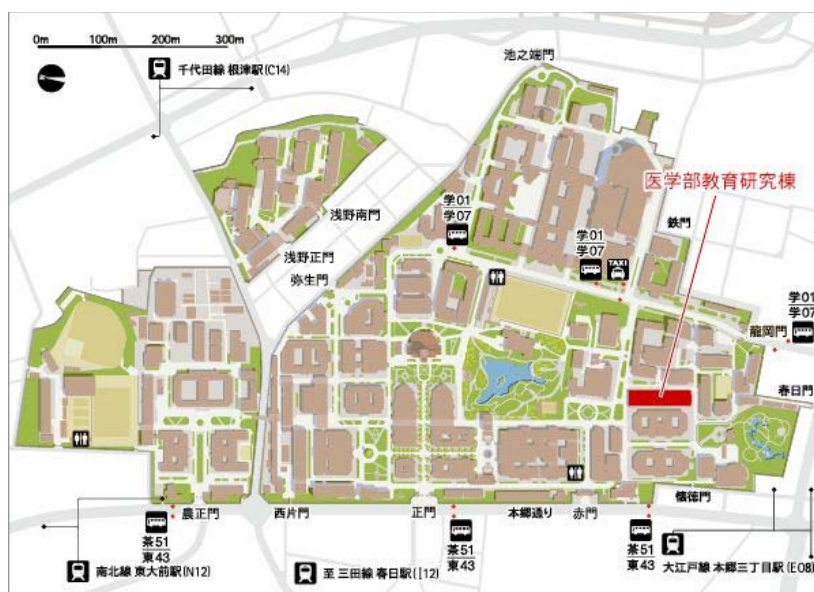
演者: 広島大学大学院医歯薬総合研究科 探索医科学講座

教授 内匠 透

日時: 平成 22 年 1 月 25 日(月) 15:00~16:30

場所: 医学部教育研究棟 13 階 第 6 セミナー室

分子生物学やゲノム科学の進歩は、様々な生理現象の分子的理解を可能にしました。ヒトゲノム計画が終了した今、精神機能に代表される脳機能、あるいは心理学領域は、分子生物学、遺伝学の最後に残された対象と言ってもよいかもしれません。この未知なる領域に、「行動」という指標をもとに、あえて分子で挑む我々のアプローチを紹介します。一つは、遺伝子から個体レベルまで客観的アッセイ法の確立した概日リズムの研究をもとにして、気分さらにはうつを含む気分障害との関連を明らかにしようとするものです。いまひとつは、最新の発生工学の手法を用いて、生物学的異常を有するヒト精神行動異常モデル(具体的には自閉症を対象として)を作製し、前向き遺伝学をやろうとするものです。ばらばらな二つの話ですが、あわせて「精神の表出系として行動異常の統合的研究」として、お楽しみいただければと思います。



【担当教室】 医学系研究科細胞分子薬理学教室 (飯野正光教授)

【問い合わせ先】 医学研究科 構造生理学教室 (河西春郎)
TEL : 03(5841)1440
<http://www.bm2.m.u-tokyo.ac.jp/>